

# 令和4年度在宅医療・地域包括ケア推進事業（研修会）アンケート結果報告書

## 1 申込み者数・参加者数

職種別	医師	歯科医師	歯科衛生士	訪問歯科相談員	薬剤師	栄養士	看護師	保健師	介護支援専門員	事務	社会福祉士	メデイカルSW	言語聴覚士	不明	合計
申込み人数	1	8	7	1	8	21	6	3	12	5	1	1	1	2	77
参加人数	1	7	6	1	8	18	6	3	11	4	1	1	1	2	70

(大和市 60名 綾瀬市 10名)

## 2 アンケート結果

回収率 60% (70人中 42人回収) 会場 96% (25人中 24人回収) ZOOM40% (45人中 18人回収)  
 大変役に立った 28名 役に立った 12名 役に立たなかった 0名 不明 2名

### 【感想】

#### <お食事連絡票について>

- ・お食事連絡票の活用方法についてよく分かりました。
- ・連絡票の使い方がはじめてわかりました。
- ・お食事連絡票の大切さをあらためて感じました。
- ・お食事連絡票は今後も活用し患者さんのために栄養管理を続けたいと思いました。 ありがとうございます。
- ・「お食事連絡票」を退院、退所時にいただいている。食形態・水分摂取・嚥下等がなぜそうなっているのかということが自由記載欄から把握することができ非常に助かっている。利用するサービス事業所にも提供し、情報共有することがスムーズなサービス調整が出来ている。
- ・地域食生活対策推進協議会の取り組みについて、講座を聞いてよりわかりました。お食事連絡票の活用について、1人1人への対応は大変なことと思いますが、施設間での食事への情報提供はとても良いことです。今後この取り組みが広がって行って欲しいです。ありがとうございました。
- ・お食事連絡票の存在を始めて知りました。食が細かったり、歯の問題でのみ込みに支障があったりする方は多々見うけられます。相談して介入までにお時間がかかりそうなイメージだったのと実際に何回位の訪問が受けられるのか金額がどのくらいか気になりました。質問すれば良かったのですが・・・
- ・栄養士との連携の取り方など知りたかったので役立ちました。今後、お食事連絡票を使って紹介をお願いしたいと思います。
- ・退院時に「お食事連絡票」があると在宅生活に移行する際にいろいろな情報が得られてありがたいと思った。コロナが蔓延するようになってからは入院中の様子を家族も把握できておらず、情報を得られない。ソーシャルワーカーからは電話での聞き取りになる為、聞き間違いなどの不安が残るし、病院での様子を家族や多職種への説明する際、伝言ゲームのようになってしまうので正確に伝えられているか不安

が残る。退院時に看護サマリーやリハビリ計画書などと一緒に食事連絡票があると助かると思った。

・食事連絡票を使って体重や食形態、栄養状態を見える化して頂けるのはありがたいと思った。退院支援時に体重やAlb、Hb、HbA1cなどきくがNS、MSWとも把握していないことが多かった。活用したいと思う。

・連絡票を利用している病院の退院患者で透析寸前の腎不全なのにも関わらず、栄養指導も入らず、食事連絡票もなかった。これを頂ける要件は何なのか？は疑問に思った。

・今の業務について5年経過しましたが、正直一度も「食事連絡票」に触れたことがありません（存在は知っていました）。ただ、今回の相談業務を行うにあたり、改めて認定栄養ケア・ステーションの内容を確認出来たり、訪問栄養食事指導のことも知ること出来たりと勉強になりました。

退院直前の方に面接する機会があります。（明日）今日学んだことを活用させていただきます。ありがとうございました。

### <管理栄養士の活動について>

・なかなか栄養の詳細を聞くことがなかったので新鮮な感じで学びました。まだまだ、普及していない業界だと思います。栄養だけでなく健康という視点で広く活動していけば対象も広がると思います。

・とても分かり易く理解できました。ダメ！！ダメ！！これは食べちゃダメ！！の指導ではなく、こうしたら食べれる、こんなに食べるものがあるとポジティブな指導に心がけているのとの言葉に真の管理栄養士を感じました。

・高齢化社会の中で今後さらに栄養管理が求められると思います。もっと管理栄養士の活躍の場を知ってもらいたいと思いました。

・医療現場に努める管理栄養士がどのように地域と関わっていけるか改めて考えるきっかけになりました。今後、在宅の方で必要と感じられる方には 検討していきたいと思います。透析の方、がんの方・・・利用者さんの願いを思いうかべて拝聴しました。

・普段の疑問に対する栄養士の技術

・在宅でどのような活動がされているのかイメージがわかりました。管理栄養士さんが何ができる人なのか知らない人も多いのではと思った。

・訪問栄養指導は、利用者さんおひとりおひとりニーズが違い、その方に寄り添った支援が大切と改めて感じました。ありがとうございました。

・とても解かりやすく病院内での業務と在宅の方の食事支援の内容が聞けて参考になりました。気持ちに寄り添う・・・難しいことですが大切にしたいと思います。治療が目的ではなく生活を続けられることが目的となる在宅に帰った時の食事の整え方、多職種の協力のもと進めることがいい結果につながることでよくわかりました。貴重なお話ありがとうございました。

・地域の管理栄養士さんの地域包括ケアシステムへの取り組みの様子が良くわかりました。

今後、地域包括支援センターの役割として、地域の高齢者等へ栄養面からの介護予防についても考えていただく講座など企画していければいいなと思いました。ありがとうございました。

・栄養士の仕事、訪問栄養指導について理解できた。説明がわかりやすく、1時間の講義が苦にならず有意義な時間を過ごすことが出来ました。「栄養」に焦点を当てて考えることが少なかったため今後はそちらに目を向けたケアマネジメントを心掛けたいと思います。「できない」理由を探す「どうしたらできるか」に代え、個別化して考えるという部分が非常に印象に残りました。今日の講義で「病院の中にいる栄

養士さん」から「頼れる栄養士さん」という視点に変わり、身近に感じられるようになりました。事例の活用もとても良かったと思います。ありがとうございました。

- ・栄養士の仕事や役割等詳しく学ぶことができた。居宅療養管理指導で依頼することがあるが、今後気軽に連絡相談できるようになると良いと考えている。

- ・多職種の活動で高齢者を支えるという考えの中で、栄養士の立場はまだまだ大きくないと思いますが、栄養士の活動の内容や高齢者にとって食事や栄養がいかに大切であるかをとてもわかりやすく伝えてくださったと思います。ケアマネ向けのアンケートで「栄養は重視していない」等の意見はショックでした。私たち管理栄養士からすると「食事＝体や心を保ち猪井を保つ」として最も大切と考えますが、職種が違えば見え方も違うのだと思いました。栄養士はこういう活動をしている！こんなこともできる！と もっと知ってもらい、活動の場が広がることを期待しています。そのためには地道にコツコツ、繰り返してアピールしていくことも大切だと思いました。ありがとうございました。

- ・管理栄養士さんの取り組みを詳しく聞くことができて勉強になりました。

- ・管理栄養士さんの訪問栄養食事指導の実施内容を把握できました。

## <栄養ステーションについて>

- ・栄養ケアステーションの存在

- ・栄養ケアステーションについて知ることができた

- ・栄養ケアステーションというステーションがあるということを知ることができました。入院と在宅では管理ニーズが異なり求められているものも違うという事が分かりました。

- ・今回、栄養ケアステーションのシステムなど改めて理解することができた。栄養指導を導入する流れが把握できた。

- ・具体的な取り組み例もあり参加者は栄養ケアステーションとの連携が身近に感じられたと思います。

- ・認定栄養ケアステーションや薬局の管理栄養士などの様に訪問栄養に関われるか等を今まで不明だった事が明確になりました。

- ・栄養ケアステーションについて詳しい説明があり今後の参考になりました。栄養士訪問がどのような形でできるのか、まだまだ知られていない現状があるかと思います。もっと普及してもらえたらなと思います。

- ・栄養は大切であるのに在宅支援ではまだまだの印象。栄養ステーションの存在は大きいと思います。もっとケアマネジャーに認知されどう普及させていかれるか課題です。講師のような方が増えるといいなと思いました。

- ・ケアマネジャーより栄養について誰に相談して良いかわからず困っているとの意見があった。認定栄養ケアステーションについて詳しく知りたいと思っていたのでとても勉強になった。

## <事例について>

- ・現場での好事例

- ・訪問栄養食事指導を利用した方の事例を聞くことができた。

- ・話し方も内容も本当にわかりやすく良かったです。事例などもっと聞きたかったです。自分や家族の食生活についても改めて考えさせられました。ありがとうございました。

・訪問看護の利用者様で、パーキンソン病があり精神的に落ち込みやすく、食欲も低下しており半年で15 kg体重減少した利用者様がいます。身体機能的には食欲不振の原因はないため、少しでも気持ちを上げて経口摂取を進めたいのですが、どう指導すれば良いか悩んでいます。主治医にエンシュアは処方して頂きましたが、いまだに体重減少が続いています。このような利用者様へ管理栄養士の方に訪問して頂き、専門的な知識と経験をご指導頂き、体重減少を止める突破口になれば良いと感じました。しかし何とか通院は可能であり、中々訪問してもらうにはハードルが高いとも思いました。今回、身近な場所に相談する窓口がある事がわかっただけでも良かったです。

## <その他>

- ・配布資料がありませんでしたので、内容の理解がついていきませんでした。
- ・会場の人とのディスカッションがあったのがよかった。
- ・栄養士でない職種からの視点や質問から、そのような意見また疑問があるのだなと知ることができ良かった。
- ・研修会の中での歯科医からの栄養の視点が今まで欠けていたとの事も改めて認識しました。
- ・歯科訪問診療を担当しています。栄養という観点から口腔内機能をあまり考えた事がなかったので今日は大変参考になりました。
- ・訪問歯科診療を行っています。咀嚼口腔機能に特化した評価は歯科衛生士の領域であり役割はとても重要だと感じています。食べることの大切さは栄養についても学ばなければならないと感じました。患者様の家族やご本人から好きな物の調理法などについてきかれる事がよくあります。
- ・食事や低栄養に対しての相談窓口がある事が分かったので、今後は気軽に相談してみたいと思いました。
- ・多職種連携という事なので、ぜひ相談したい事ありますので、一度うかがわせていただきたく存じます。
- ・訪問歯科や薬局の方、ケアマネさん等がどのように関わっているか、疑問に思っているが知ることができ参考になりました。
- ・講師のお話し、説明が熱く分かりやすく、ケアマネさんを始め、他職種のかたに伝わったと思います。また、管理栄養士自身 地域包括ケアシステムについて再認識し、地域での立ち位置を再確認し、今後の活動の発展に繋げていくのではと期待しています。
- ・講師のとっても分かりやすいお話しありがとうございました。熱意が皆さんの胸に伝わったと思います。ご講演のご準備、本当にありがとうございました。
- ・在宅での栄養指導は「在宅生活の目標達成のための支援〇〇〇したい」という目標で行うという言葉が非常に印象的だった。
- ・栄養指導指示書は点数が取れず、お食事連絡票は点数加算できるということも学びました。
- ・高齢者の低栄養は色々な疾病憎悪や未病に対しても栄養状態の悪化に関係している。そのことをもっと市民に広報できることが必要と考えます。身体機能や認知症、DM 等悪化する前に栄養を見直す一つに

するような機会があればいいと思います。

- ・栄養は全年齢の人々にとって大切であること、特に高齢者のにとっては栄養についての支援が必要であることを学びました。
- ・質疑応答のファシリテーターの対応についてファシリテーターの方に、質問をチャットに書いたが「フリーディスカッションで発言ください」とコメントがあり、発言したが途中で遮られた。Zoomからの質問で会場の音声の問題はあるだろうから、チャットでした質問はファシリテーターか講師が読み上げて回答でよかったのではないだろうか？
- ・参加者も多く皆さんの関心の高さもうかがえました。

### 【今後の研修テーマ】

- ・輸液について
  - ・みとり、緩和ケア、ポリファーマシー、対人援助
  - ・無気力、独居の方へのアプローチについて
  - ・栄養のことは継続してやってもらいたい
  - ・コロナなので無理ですが・・・実技があると良い
  - ・訪問リハをテーマにしてほしい。寝たきりの方でも導入できるし、逆に寝たきりの方だけのものではないことも主に医師の方にわかってもらいたい
  - ・多職種で物を考えたり、治療に対する意見をうかがったりする事はとても大切なことだと思う
  - ・理学療法士さん介護士の皆様からの視点でも加えて訪問歯科診療を考えてみたい
  - ・退院支援—HPとCMの連携を各市、各県ではどう取り組んでいるのか
  - ・大和センターならではのものとして、市単位でなく綾瀬と大和で一体的に取り組める内容  
例えば、BCPなど？災害時、多職種連携についての研修 ACP
  - ・訪問看護ですら、なかなか必要性を感じてもらえない高齢者が多い中、訪問栄養指導の必要性を感じてもらうのは、なかなか難しいのが現状です。周りでも訪問栄養指導を利用しているケアマネは少ないように感じます。だからこそ、もっと、もっと色々な事例を聞きたいと思いました。
  - ・ZOOM開催があると研修に参加しやすいと感じました。
  - ・多職種連携について
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大予防対策など
- 行政の取り組みなど”
- ・今回は歯科関連の方の参加が多かったのでそれ以外の職種の方も参加していただける内容
  - ・コロナ禍の影響もあるのか、精神疾患がらみの相談が増えています。対応方法や医療機関との連携など
  - ・医療保険制度や感染予防に関するBCPについてなど。
  - ・食物アレルギーについて

以上